

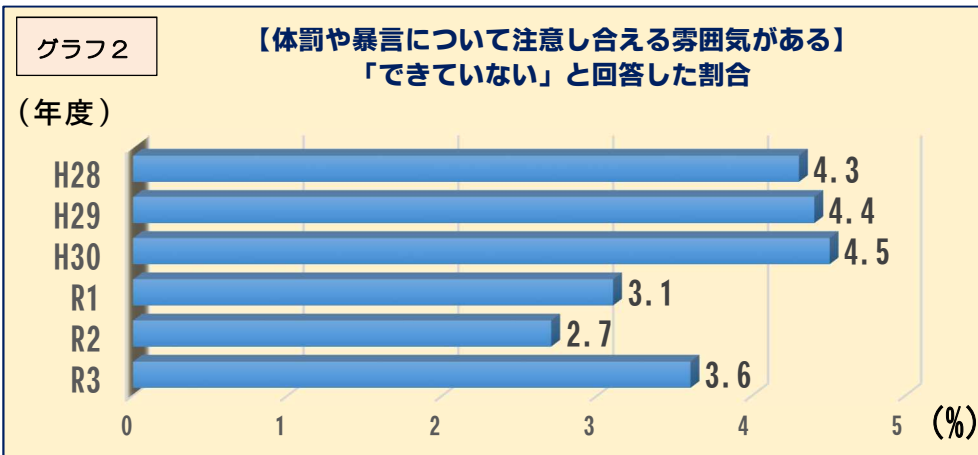
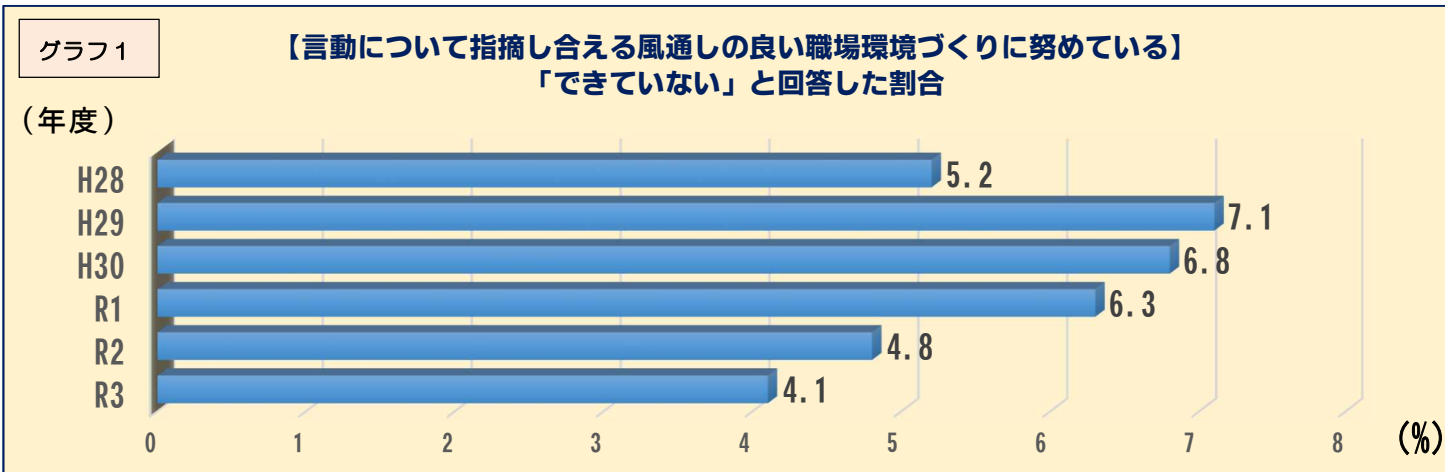


# 竹林の風

## たかが報・連・相。されど報・連・相。

今年度、各学校にて実施したコンプライアンスチェックの回答状況について、管内の傾向をまとめてみましたので、お知らせしたいと思います。本調査の県全体の結果は、1月中旬以降に義務教育課から報告される予定です。

なお今回は、「できていない」と回答した割合が比較的高い2つの項目に注目し、経年の状況をグラフにしました。それぞれ、縦軸は調査年度、横軸は回答割合（管内学校の平均値）を表しています。



状況として「各職員が必要であると感じていることが言えていない。」という環境が見えてきました。できていない（言えていない）ということは、結果的に教職員が仕事の目的や手段について理解していないことと同様になってしまいます。また、グラフ2では今年度の回答割合が増加していることも気になるところです。

これらの状況から、言いたいこと（必要と感じていること）が言える「風通しの良い職場づくり」の更なる推進について考えてみました。「職場の風通し」については、第42号、45号で御案内のとおり、各学校で積極的に取り組んでいただいているところです。今年度のアクションシートの内容からも、引き続き管理職者、特に教頭先生を中心にした「何でも言える雰囲気づくり」や「職員一人一人への細やかな言葉かけ」等の取組が進められていることが確認できました。

ところで、「言いたいことが言える」とは、「思いついたことを考えなしで発言しても大丈夫」ではないことは、誰もが承知のことだと思います。また、言いやすい雰囲気をはき違えて、業務上適切でない発言や気の緩みが表れた態度が増え、緊張感に欠ける職場になってしまえば意味がありません。

私は、風通しの良い職場づくりには「報・連・相の徹底」が重要であると考えています。これは一般的に、組織として、また社会人として当たり前のこととされていますので、今更感があるかもしれませんが、あらためて意識化を図ってみてはと思います。そして、「報・連・相の徹底」は、管理職者の働きかけだけでなく、むしろ、教職員一人一人が意識して取り組むことが求められるものだと思います。

例えば、基本となる「報告」についてです。

上司や同僚から何かを依頼され、それが完了した際に「あれはこうでした。」と必ず報告しているでしょうか。届けた、伝えた、確認した、そして何も問題はなかった、それで一応責任は果たしたわけですが、もう一つ進んで、処理した結果を確実に報告することが最も肝要だと思います。私も、報告やお

礼をどうしても忘れがちになります。それは「これくらいの小さな案件だから報告の必要はないだろう。」と勝手に判断し、そのうちに、だんだんと面倒になってしまうのです。

一方で、依頼した側はどうでしょうか。確実に届いたのか？、相手はどんな反応をしていたか？など気にしているのかもしれませんが。「先程〇〇さんに届けてきました。」「〇〇さんに確認し、やはり問題はないようです。」「〇〇さんにお電話したところ、1日不在とのことでした。明日の午前中に再度御連絡してみます。」などと報告すれば安心し、「忙しいところお手をかけました。ありがとうございました。」とコミュニケーションが生まれるのです。こうしてみると、作業が回りくどく感じるかもしれませんが、丁寧で確実な報告の積み重ねは、結果的に相手からの信頼感につながります。また、習慣化することで、お互いへの思いやりも更に深まるものと思います。

この信頼感と思いやりこそが職場の安心感（心理的安全性）を生み、思っていることが言える、小さな案件でも確実に伝わる、本当の意味での風通しの良い職場環境をつくっていくのだと思います。

「水は方円の器に随う」。風通しの良い職場づくりの次のステップは、管内全ての教職員が、自分たちで信頼と思いやりを溢れた『器』をつくっていく番ではないでしょうか。

たかが報・連・相。されど報・連・相。



### 報・連・相コラム ～ あえて隙をつくる？ ～

先日、教員を目指している大学4年生の方々とお話をする機会がありました。今の学生さんは、報・連・相をどの程度意識されているのか聞いてみたところ、研究室やアルバイト先でも大切さを学んでいるようでした。その話題の中で共通していたのは、先輩や上司が忙しそうにしていると、お声をかけることを躊躇してしまうとのことでした。

私の話になり恐縮ですが、これまでお伝えさせていただいた上司や先輩を思い出してみると、どんなにお忙しい時でもその雰囲気を見せず、お声をかけると、必ずペンを置いて向き合ってくれました。想像するに、私が悩んでいる頃合いを見て、あえて相談できる隙をつくってくれていたのではないかと思います。心から感謝です。

さて、中堅教員等資質向上研修が修了すればミドルリーダーを意識すべきです。どんなに忙しくてもあえて隙をつくれる余裕をもちたいものです。それを後輩たちが受け継いでいけば、やがて職場の風土となっていくものと思います。

そういう私は、毎日職員に気を遣わせてしまっているようです。自分自身は隙だらけなのですが、余裕のある隙になっていないのだと思います。先輩方からいただいた御恩をまだまだお返しできていない状況です。反省。

## 福田富一知事が学校視察

9月17日(金)、福田富一知事が管内の学校を視察されました。今回の掲載までに時間差が生じてしまいましたが、御報告します。

視察の目的は、コロナ禍の学校教育活動の現状とICT機器等の活用状況を知事自ら参観し把握することです。中学校を訪問とのことで、宇都宮市教育委員会の御協力の下、宇都宮市立星が丘中学校を訪問させていただきました。突然の御依頼にもかかわらず快く御協力いただきました、田中芳浩校長先生をはじめ、教職員の皆様、生徒の皆さん、大変お世話になりました。あらためて感謝申し上げます。

県からは、福田富一知事、荒川政利教育長、塚田三夫保健福祉部参事(感染症対策)の他、8名が参加し、学校の現状説明を受けた後、授業参観、懇談会を実施しました。懇談会では、旭野好紀 PTA 会長様、熊本直子 PTA 副会長様にはお忙しいところ出席いただき、家庭や地域の状況を丁寧にお話いただきました。大変お世話になりました。



知事がお帰りの際には、たくさんの生徒たちが周囲でそわそわしていたので「せっかくだから挨拶をしてきたら……」と言ったところ、待っていましたとばかりに、お声をかけていました。物怖じしない彼らの姿が、中学生らしく爽やかで、そして逞しく感じました。学校、家庭、地域が一体となって、子供たちをのびのびと育てておられることが十分伝わってくるような微笑ましい光景でした。

教職員一人一人の誇りと品格は 教育への信頼を確たるものにする